



佐藤 稔 議員

SNSを活用した「いじめ相談窓口」について

問 子ども達が気軽に相談できる、SNSを活用した^(※)「ストップイット」や「スクールコンケア」などの導入を提案するが、市の考えを伺う。

答（教育部長） スクールコンケアやストップイットは即時性、情報収集という点で有効であり、いじめの早期発見につながると思われる。スクールコンケアについては市内の中学校 1 校で昨

※「ストップイット」「スクールコンケア」…いじめ等のトラブルの早期発見・心のケアを目的としたアプリケーションツール。

年 12 月より試験運用しており、今後、同様のアプリ等についても研究を進めていきたい。



スクールコンケア

手話言語条例の制定について

問 全国的に手話言語条例制定の動きが広まっている。障がい者に優しいまちづくりを目指す古河市の手話言語条例の制定を提案するが市の考えを伺う。

答（健康福祉部長） 県や近隣市町での制定状況を確認し検討していきたい。また、制定に当た

り、市の責務、市民、事業者の役割の明確化、さらに実効性の検証、評価する体制の整備が必要と考える。

公用車への「ドライブレコーダー」設置について

問 事故やトラブル時の責任の明確化や安全意識の向上等を目的に平成 26 年 12 月定例会で提案したが、市の進捗状況を伺う。

答（財政部長） 平成 27 年度から段階的に導入し、現在 57 台に設置している。今後も新規車両への積極的な設置、有効的な活用に努めていきたい。

〈その他の質問〉

- ・若者の就労支援の充実について
- ・改正バリアフリー法について



渡辺 松男 議員

高血圧性疾患対策について

問 国民健康保険の医科・調剤医療費では、がんに次いで高血圧症などの循環器疾患に要した費用が多額の割合を占めている。また、以前は古河庁舎等に血圧計が設置されていたが、最近は見ないとの声があった。そこで、古河市データヘルス計画から見た高血圧性疾患の現状と分析、今後の取り組みについて、また、行政施設への血圧計設置の現状について伺う。さらに、高血圧

対策として市の主要施設に血圧計を設置して市民が気軽に血圧を測定できるようにしたり、またパンフレットを置き、啓発をすべきと思うが所見を伺う。

答（生活安全部長） 古河市では 40 歳から 74 歳までの国民健康保険加入者を対象に、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を実施している。健康診査結果を近隣市と比較すると予備軍の割合が高く、中でも血圧のみ基準を超えている人の割合は県内で 1 位の状況である。また、国民健康保険加入者における生活習慣病関連疾患のうち高血圧症に要した医療費が全体の 27.56%を占めている。健康診査の受診勧奨など、保健事業の実施を強化することで、生活習慣

病の発症や重症化を予防していきたい。

答（健康福祉部長） 以前は各庁舎および古河福祉の森等も血圧計を設置していたが、現在は健康の駅のみとなっている。また、啓発活動として、広報古河 6 月号に高血圧に係る特集記事を掲載した。血圧計の設置については、健康の駅の設置場所等の見直し、使用頻度等を確認した上で検討していきたい。



〈その他の質問〉

- ・暗がり対策について